



四小だより

令和7年 5月28日
府中市立府中第四小学校
校長 安原 一朗
No.3

たくましく、まっすぐで、こころあたたかい多磨っ子の伝統の運動会

校長 安原 一朗



左の写真は、ご存知の『多磨っ子の像』です。本校100周年の記念として体育館の前に建てられました。当時の第18代校長の菊地鋭雄先生は、創立百周年記念誌の中で、『多磨っ子の像』は、多磨の教育、本校の伝統の象徴であり、地域の皆さんの願いであり、今後の教育のシンボルである。」と述べています。

創立百周年記念誌から、体育関連の記事を紹介します。

【多磨尋常小学校時代(明治35年～昭和15年)】当時の思い出として一番心に残っているのは、陸上競技が非常に盛んだったことである。対外試合の全盛期で、府中、調布、小金井に行き、連戦連勝して優勝旗を何本も持ち帰った。(後略)

【多磨国民学校時代(昭和16年～20年)】本校の特徴…運動が盛んであった。特に相撲、陸上競技が強かった。体育の時間には、真冬でも、裸で、しかも素足で多磨墓地までマラソンをした。

【多磨小学校時代(昭和22年～27年)】始業前朝早くから放課後暗くなるまで、リレー競争の猛訓練をして、都下に覇をなし優勝旗をかき集めた。元気で負けず嫌いの多磨っ子であった。(後略)

以上が運動会の挨拶でお話した体育が盛んな四小=多磨っ子の伝統です。今年の子供たちも、徒競走、表現・ダンス、リレー、大玉送りで素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。子供たちは、朝から元気。やる気満々で、応援合戦での声の大きさ、「運動会の歌」の迫力は、ちょっとほかの学校にはないものです。赤白それぞれの団長が素晴らしい演技で、全校児童を引っ張ってくれました。

いろいろな学校を回っている来賓の方々から「四小は、観客が多いですね。」とのお声を頂きました。観客数は、1485人。児童数は519人、家庭数は417家庭です。保護者の皆様からひいおばあちゃん・おじいちゃん、中学生・高校生まで大勢参観していただきました。六中生は演技の合間の水撒き等、ボランティア活動で活躍してくれました。二中生は、後片付けに率先して参加し、重い物を運んでくれました。保護者の方々もテントの設営・撤去の作業等をしていただきました。おかげさまで作業が早く終わりました。感謝申し上げます。

社会情勢の変化や考え方の変化で、運動会のあり方は少しずつ変わっていきます。どの学年も、4月から積み重ねてきた練習の成果が十分に発揮され、どの子も徒競走では歯を食いしばって最後まで走りぬき、表現・ダンスでは、やり切った達成感で笑顔を輝かせていました。

保護者の皆様には、お子様の日々の健康管理から様々な協力をいただきました。ありがとうございました。